

「アスベスト・じん肺ホットライン」相談から、 鹿児島で初の労災認定に！

- 40年前6年間曝露で中皮腫に -

1 ,被災者：Tさん（2003年5月27日永眠、享年59歳、奄美大島）7月労災認定

2 ,職業：建設業（主に九州電力の下請け）
高校卒業後1962年から関西に出て、鉄工所勤務などを経て、シャッター会社でシャッターの設計施工に従事。その後会社は、取り付け工事を下請化し、Tさんは同僚とともに下請会社で取り付け業に従事。1969年、病気のため帰郷、回復後は一時期シャッター取り付け業を営したが、その後、九州電力の下請会社の事業主となる。

40年前の6年間従事した作業でのアスベスト曝露がTさんの命を奪った。

3 ,病名：「悪性胸膜中皮腫」（関西のシャッター会社での石綿曝露が原因）

4 ,労基署：尼崎労働基準監督署
2003年3月 労災申請（療養補償）
7月 労災認定
8月 遺族補償請求
10月 遺族補償認定

5 ,労災申請に至るまでの経過
2002年1月地元の病院（徳州会病院）に入院、3月肺の水を抜く原因不明と診断され、7月県立大島病院へ、結核性胸膜炎と診断される。9月再入院、再検査（レントゲン・CT・MRI・胸膜検査・骨髄検査）後、悪性中皮腫と診断される。

医者に「治らない」と告げられた娘さんが、昨年の「アスベスト・じん肺ホットライン」（東京労働安全センター）に相談があり、鹿児島の安全センター準備会でも家族や、奄美大島にTさんを訪ね聞き取り調査を行う。

その結果、吹付けアスベストがある九州電力

の変電所作業はわずかで、他にはアスベストに曝露する作業は確認できなかったが、関西でのシャッター工事でアスベストに曝露していた実態が明らかになった。

1960年代は、スーパーマーケット等の大型店舗が展開を始める時期で、新興大手スーパーが多くの新店舗を建設していた。シャッターは店の正面だけではなく、火災時に延焼を防ぐために、エスカレータの周囲に設置された。

Tさんは、1966年から69年にかけて、この防火シャッターを専門に取り付ける工事を行っていた。当時の鉄骨建築には耐火のためアスベストが必ず吹き付けられていた。シャッター取り付けは、吹き付け工事直後か同時並行的に行われ、吹き付け工事のアスベスト粉じんの舞うなか、自らも吹き付け材を剥がしながら施工していた。

当時の経営者で今でもシャッター工事をしているNさんから、Tさんを雇用し現場作業に従事してもらっていたとの証言が得られ、この証言が転機となり、尼崎労基署へ労災申請を2003年3月行う。

Tさんは7月の労災認定の知らせを聞くことなく、5月27日に永眠。10月には遺族補償も認定された。

鹿児島では初めてのアスベスト曝露が原因の中皮腫が労災認定となった。

アスベスト(石綿)問題を考える

アスベスト・石綿について

1. アスベスト・石綿及び石綿製品の状況

(1) アスベスト・石綿の種類

アスベストとは、天然に産出する繊維状の含水珪酸鉱物の総称であり、蛇紋石系のクリソタイル(白石綿)と角閃石系のクロシドライト(青石綿)、アモサイト(茶石綿)、アンソフィライト、トレモライト、アクチノライトの6種類(資料1)があります。

日本では、クロシドライト、アモサイトについては1995年に労働安全衛生法に基づき製造・輸入・譲渡・使用等が禁止されており、現在も使用されているのはクリソタイルアスベストのみが使用されています。

(2) アスベストの輸入量の推移

日本は世界中で最大のアスベスト消費/輸入国のひとつです。

日本は1890年代にアスベストの輸入を始めるようになりました。第2次世界大戦中に、アスベストの輸入は中止され、政府は、国内のアスベスト鉱山の開発を奨励しました(約50鉱山)。しかし、それらの鉱山は現在ではひとつも操業していません。例外は北海道の富良野で、ここではポタ山からわずかな量のアスベスト繊維を取り出しています。日本で消費するアスベストのほとんど全てが外国から輸入されています。

日本のアスベスト輸入量は1960年代より増

加し、1974年の35万トンを超えて最高に年間約30万トン前後で推移してきたが、1990年代から年々減少傾向にあり、2001年は7万9千トンとなっている。2002年の輸入量は4万3千トンであり、前年比45%減、ピーク時の88%減となっています。

不況の影響により、1989年以降、アスベスト消費量は継続的に減少してきています。しかし、他の工業化諸国と比較すると、日本の消費量は今なお著しく途方もなく高いままです。

1999年に、日本は117,143トンのアスベストを、カナダ(59,146トン、50.5%)、ジンバブエ(24,392トン、20.8%)、南アフリカ(13,302トン、11.4%)、アメリカ合衆国(6,835トン、5.8%)、ブラジル(6,359トン、5.4%)、ロシア(4,674トン、4.0%)、他(2,435トン、2.1%)から輸入しています。(資料2)

(3) 石綿製品の種類と用途

石綿はその9割以上が建材製品に使用されています。

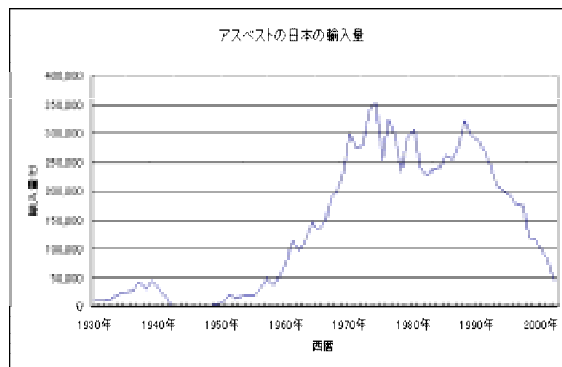
アスベストは耐熱性、引っ張り強さのような多くの興味深い特性をもっていることから、日本ではそのピーク時において3,000種類以上の用途に使用されていたと推定されています。

1996年の日本石綿協会のレポートによると、日本は188,500トンのアスベストを輸入しています。このうち、42.1%が平板スレート(75,100

資料1) 石綿の種類

	分類	石綿名	備考
石綿	蛇紋石系	クリソタイル(白石綿)	輸入により使用
		角閃石系	クロシドライト(青石綿)
	アモサイト(茶石綿)		
	角閃石系	アンソフィライト	他の石綿の鉱床中に不純物として含まれる
		トレモライト	
		アクチノライト	

(資料2)



トン) 20.6%が波形スレート(36,800トン)、18.4%が押出成形セメント板(32,800トン)、5.2%がバルブ・セメント板とスラグ石膏板(9,300トン)、4.3%が石綿セメント・サイディング板(7,600トン)、2.4%が他の建材、2.9%が自動車用摩擦材(5,200トン)、1.4%がジョイント・シート(2,500トン)に使用されています。(資料3)

(資料3) アスベストの用途

	製品の種類	主な用途
建材	押出成形セメント板	建築物の非耐力外壁及び間仕切壁
	住宅屋根化粧スレート	住宅用屋根
	繊維強化セメント板(平板)	建築物の外装及び内装
	繊維強化セメント板(波板)	建築物の屋根及び外壁
	窯業系サイディング	建築物の外装
	石綿セメント円筒	煙突
非建材	断熱材用接着剤	高温下で使用される工業用断熱材同士の隙間を埋める接着剤
	耐熱、電気絶縁板	配電盤等
	ジョイントシート	配管又は機器のガスケット
	シール材	機器等の接続部分からの流体の漏洩防止用の詰物
	その他の石綿製品	工業製品材料(石綿布等)、プレーキ(摩擦材)

2, アスベスト・石綿関連疾患と職場における健康障害防止対策

(1)アスベストの有害性

アスベスト・石綿粉じんを吸入することにより、主に次のような健康障害を生じるおそれがあります。

石綿肺

肺が線維化してしまう肺線維症(じん肺)という病気の一つです。肺の線維化を起こすものは他の鉱物性粉じん等多くの原因がありますが、特に石綿肺として区別しています。

肺がん

肺胞内に取り込まれた石綿繊維の主に物理的刺激により肺がんが発生するとされています。発がん性の強さは、石綿の種類により異なる他、石綿の太さ、長さにも関与します。

悪性中皮腫

肺を取り囲む胸膜や、肝臓や胃などの臓器を囲む腹膜等のできる悪性の腫瘍です。

アスベストの使用量は激減していますが、日

本では今なおアスベストがつかられ続けています。過去に建物に吹き付けられたアスベストやアスベスト含有建材は、今後ピークを迎える改築や解体により、その粉塵の飛散が懸念されています。

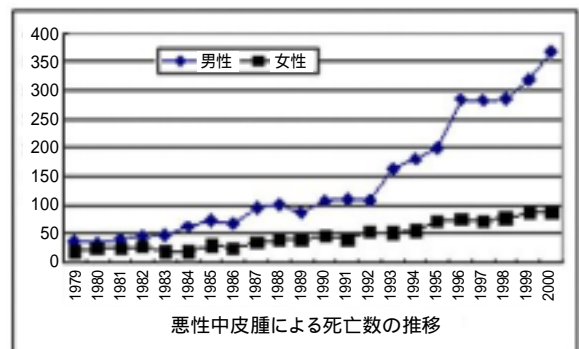
40年間の潜伏期間を経て発症する悪性胸膜中皮腫は、1960年から80年代のアスベスト消費のピークを考えると、これから被害者が増大すると予測されています。(資料4、資料5)

(2)中皮腫 アスベスト関連疾患について

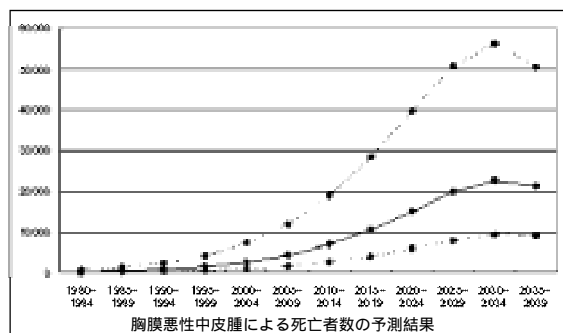
我が国における死亡件数は、1995年以降、人口動態統計により把握できるようになりましたが、1995年の500件(胸膜275件、腹膜51件、心膜51件、その他部位11件、部位不明157件)から、2001年の772件(胸膜530件、腹膜51件、心膜6件、その他の部位16件、部位不明159件)へと急増しています。

これに対して、労災認定件数は、1995年の13件(500件に対する比率は2.6%)から、2001年の33件(772件に対する比率は4.3%)へとわずかに増えてはいるものの、殆どが労災申請できることも知らされないまま、放置されているものと思われます(肺ガンの場合にはなおさらである)。

(資料4)



(資料5)



2002年4月の日本産業衛生学会では、今後40年間の胸膜中皮腫死亡数が10万件を越す可能性があると「将来予測」が発表されています。胸膜以外の中皮腫や肺ガンその他も含めたアスベスト被害の全貌は想像を絶するものになるかもしれません。

特に中皮腫は、発症から約15ヶ月で半数が死亡、5年生存率はわずかに3.7%とも言われ、有効な治療法も未だ確立されていない恐ろしい疾病です。年間死亡率が千件以内に収まっている今のうちに、その全症例を徹底調査し、現状把握、診断、治療、被災者・家族の物心両面にわたるケア、補償等、アスベスト健康被害全体にわたる総合的な対策に役立てることが必要です。

3、日本におけるアスベスト訴訟の事例

(1) 日本では、アスベスト関連疾患に対しては、これまでに7件の個人傷害訴訟(民事損害賠償請求)事件があるだけです。これらのうち、6件がすでに法廷外和解に達しており、被告企業は被災者1人当たり500～4,000万円を支払っています。日本では、環境曝露に関連した訴訟や製造物責任訴訟はありません。

(2) 初期の事件は、アスベスト製品製造工場で働いていて、じん肺に罹患した元労働者と被災者の遺族によって提起されたものでした。

(3) 1988年、8人の石綿肺に罹患した元造船労働者が、住友重機械工業を提訴しました。1995年には、アスベスト関連肺がん(労働基準監督署は業務上疾病と認定済み)で死亡した造船労働者の遺族が、同じ会社を提訴しました。すべての被災者は、この会社の横須賀市内にある造船所で働いていました。両方のケースとも、1997年に和解しています。

(4) この時同時に、被災者たちの所属する労働組合が、会社との間で、退職労働者に対する補償に関する協定を締結しました。この協定によれば、会社は、アスベスト関連疾患で死亡した退職労働者の遺族に対して、1千万円から1千6

百万円(被災者の年齢に応じて)を支払わなければなりません。

(5) 1993年、四国電力の元労働者の家族が同社を提訴しました。この労働者は、西条火力発電所に勤務し、悪性胸膜中皮腫によって死亡しました。この事例は、1991年に私たちが実施したアスベスト・職業がん110番に相談に来られたものでした。この事件は1999年に解決していません。

(6) 1998年に、米海軍横須賀基地艦船修理廠の元労働者12人と4人の遺族が、日米安全保障条約に関連した特別法に基づいて、日本政府を提訴しました。損害賠償請求額の合計は3億2,500万円です。原告たちは、彼らの病気や家族の死亡は職場におけるアスベスト曝露によるものであると主張しています。この裁判は2003年5月27日に解決しています。

(「石綿の代替化等検討委員会報告書」/厚生労働省2003年5月、「日本におけるアスベスト問題の状況と石綿対策全国連絡会議の取り組み」ブラジル世界アスベスト会議/2000年9月での報告-をもとに事務局で編集しました。)

(「日本におけるアスベスト問題の状況と石綿対策全国連絡会議の取り組み」ブラジル世界アスベスト会議/2000年9月での報告から)

日本における中皮腫による死亡者数（人口動態統計による）

年	性別	合計	胸膜中皮腫	腹膜中皮腫	心膜中皮腫	その他部位	部位不明	参考
1995	男性	356	201	35	3	7	110	12
	女性	144	74	16	3	4	47	3
	合計	500	275	51	6	11	157	15
1996	男性	420	283	23	5	12	97	25
	女性	156	75	22	3	1	55	5
	合計	576	358	45	8	13	152	30
1997	男性	451	281	31	3	9	127	23
	女性	146	74	17	2	3	50	6
	合計	597	355	48	5	12	177	29
1998	男性	429	283	39	2	7	98	30
	女性	141	78	23	1	4	35	2
	合計	570	361	62	3	11	133	32
1999	男性	489	319	27	4	20	119	16
	女性	158	85	21	1	5	46	10
	合計	647	404	48	5	25	165	26
2000	男性	537	367	30	3	11	126	21
	女性	173	89	24	1	4	55	6
	合計	710	456	54	4	15	181	27
2001	男性	574	414	35	5	10	110	22
	女性	198	116	26	1	6	49	14
	合計	772	530	61	6	16	159	36

「参考」は、「胸膜の悪性新生物(除中皮腫)」

	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001
中皮腫による死亡件数	500	576	597	570	647	710	772
中皮腫の労災認定件数	132	12	10	19	25	34	33
中皮腫の「認定率」	2.60%	2.08%	1.68%	3.33%	3.86%	4.79%	4.27%
石綿肺がん死亡件数推測(中皮腫×2倍)	1,000	1,152	1,194	1,140	1,294	1,420	1,544
石綿肺がんの労災認定件数	4	15	12	23	17	17	21
石綿肺がんの「認定率」	1.00%	1.30%	1.01%	2.02%	1.31%	1.20%	1.36%
石綿による死亡件数推測(中皮腫+肺がん)							
石綿による労災認定件数							\$ d 労災1.30%

日本における石綿関連がんの労災補償状況

中皮腫・じん肺・アスベストセンターは、アスベスト(石綿)の吸入から約40年たって発症する、悪性胸膜中皮腫・悪性腹膜中皮腫・悪性心膜中皮腫・(アスベスト関連)肺癌・石綿肺(アスベスト肺)のご本人やご家族の全国的相談窓口として、環境へのアスベスト(石綿)飛散の全国的相談窓口として、またアスベスト(石綿)の測定・調査・研究団体として、発足した民間の非営利団体です。

2003年9月1日から、設立の準備にあたる事務局の活動が開始されました。9月から11月までに全国の195名の方から多様な相談を伺っています。2003年12月6日に、設立総会が行われました。

NPO法人 じん肺アスベスト被災者救済基金(神奈川)、NPO法人 東京労働安全衛生センター、社団法人 神奈川労災職業病センター、関西労働者安全センター、NPO法人 愛媛労働安全衛生センター、全国労働安全衛生センター連絡会議(東京)、石綿対策全国連絡会議(東京)等のアスベスト(石綿)の被災者の労災認定や支援に長年経験のある団体が参加して、全国からの相談に応じています。

医療関係では、横須賀中央診療所、ひらの亀戸ひまわり診療所、杉浦医院(名古屋)等、悪性胸膜中皮腫や(アスベスト関連)肺癌の治療相談や労災認定の援助を長年行ってきた、医師等がご相談に応じています。

アスベスト(石綿)の環境対策では、アスベスト根絶ネットワークの経験を生かし、ご相談に応じています。

〒136-0071

東京都江東区亀戸7-10-1 Zビル5階

中皮腫・じん肺・アスベストセンター

所長 名取雄司(ひらの亀戸ひまわり診療所 横

須賀中央診療所)

副所長 平野敏夫(ひらの亀戸ひまわり診療所 所長)

事務局長 永倉冬史(石綿対策全国連 事務局次長)

中皮腫・じん肺・アスベストセンターへのご相談は、以下で受け付けています。

TEL : 03-5627-6007

FAX : 03-3683-9766

Email: info@asbestos-center.jp

鹿児島県内のご相談は

フリーダイヤル

0120-631-202

2003年9月から現在まで、アスベストセンターには、257件の相談が寄せられました。

総件数	257件
-----	------

中皮腫関連	77件
-------	-----

労災認定数	9件
-------	----

労災申請数	11件
-------	-----

(相談時に認定あるいは申請の者を含む)



Join Us!!
in GAC 2004 Tokyo

2004年11月19-21日

東京・早稲田大学国際会議場

「静かな時限爆弾」とも呼ばれる発ガン物質・アスベスト(石綿)の使用に内在するリスクの根絶に向けて、世界規模で協同の努力が広がっています。わが国でも10月1日から「原則使用禁止」が導入されることになりましたが、環境中に莫大な残されているアスベストや、これから本格化する健康被害にいかに対処していくのか。

課題は山積みです。アスベスト・リスクのない世界の実現に向けて
together for the future



「写真展 静かな時限爆弾 = アスベスト被害」から 写真: 今井明

2004年世界アスベスト東京会議

Glocal Asbestos Congress 2004 in Tokyo [GAC2004]

会議のテーマ・基調報告

全体会議

2004年11月19日(金)

09:00 - 12:00 (3時間)

セッション1.

アスベストの地球的健康影響: 緊急の行動の必要性

13:00 - 15:30 (2.5時間)

セッション2.

環境曝露・危機管理・リスクコミュニケーション

16:00 - 18:30 (2.5時間)

セッション3.

被災者・家族のエンパワーメント

2004年11月20日(土)

09:00 - 12:00 (3時間)

セッション4.

医学的側面: アスベスト関連疾患の診断・治療等

13:00 - 15:30 (2.5時間)

セッション5.

アスベスト被害に対する補償

16:00 - 18:30 (2.5時間)

セッション6.

既存アスベストの把握・管理・除去・廃棄

2003年11月21日(日)

10:30 - 13:00 (3時間)

セッション7.

アスベスト・リスクのない世界: 明日への戦略

ワークショップ

A. アジア・ネットワーク: 目標と行動

B. 建設とアスベスト

C. 労働組合のイニシアティブ

D. アスベスト訴訟

E. 疫学・公衆衛生・予防

F. 被災者・支援組織

G. 多国籍企業・海外移転

H. 造船とアスベスト



行政文書の公開を通じて、厚生労働行政の透明性と労働生活環境の向上をめざす。

労災職業病相談フリーダイヤル 『0120 労災ネット』
全国どこからでも 0120-631-202

あなたのお近くの地域センターにつながります。

<p>開示文書 ></p> <p>情報公開請求により入手した一般に公開されていない行政文書を、項目別に掲載します。</p>	<p>認定基準 ></p> <p>業務上疾病(職業病)の労災認定基準と関連資料、参考サイトなどを掲載しています。</p>	<p>資料箱 ></p> <p>主要通達の日付順一覧や統計、公開された資料、その他の資料・情報を掲載しています。</p>
--	---	---

全国労働安全センターが情報公開請求により入手した労働行政関係文書を「情報公開推進局」HPで公開しています。労働基準、安全衛生、労災補償などキーワードによる検索ができます。

JOSHRC 全国労働安全センター連絡会

「情報公開推進局」HP

<http://www.joshrc.org/~open/>

お役立てください!!

職場のストレスに対する答えは職場にある

ILO(国際労働機関)は、ディーセント・ワーク(ディーセント=公正なる)を21世紀の労働のキーワードとしています。ディーセント・ワークこそが成長を育むことに繋がり、新しい視点です。しかし、企業経営には不可欠の視点であり、働きやすくなる職場環境の存在するかどうかの判断基準は、ストレスや職場環境の横行にかたが、ストレスや職場環境の改善に努めているかどうかではないかと、一冊の解説に意匠を凝らした安全センター一冊をお知らせします。

<p>第三号 職場のストレス関連特集号</p> <p>編集 全国労働安全衛生センター連絡会 発行所 労基 労基</p>	<p>鹿児島安全センター情報</p>
<p>第五・六号 心とからだのストレス対策特集号</p> <p>編集 九州内科クリニック 発行所 九州 高野子</p>	
<p>第七号 VDT対策特集号</p> <p>レイアウト作業の労働環境を改善</p>	
<p>第八号 鹿児島労働安全衛生学校特集号</p> <p>編集 鹿児島県労働局 発行所 鹿児島 労基 労基 発行所 鹿児島県労働局 発行所 鹿児島 労基 労基</p>	
<p>第十号 相談・カウンセリングの技術特集号</p> <p>編集 全国労働安全衛生センター連絡会 発行所 労基 労基 発行所 全国労働安全衛生センター連絡会 発行所 労基 労基</p>	
<p>●第十一号 アスベスト・中皮腫、石棉問題を考える</p> <p>一冊から十一号まで、情報誌として好評です。</p>	<p>鹿児島安全センター情報 単行本</p> <p>発行所 鹿児島県労働局 発行所 鹿児島 労基 労基 発行所 鹿児島県労働局 発行所 鹿児島 労基 労基</p> <p>TEL 0995-831870 FAX 0995-830870</p> <p>価格 500円</p>

機関誌	鹿児島安全センター情報 単行本	発行所	鹿児島県労働局 発行所 鹿児島 労基 労基 発行所 鹿児島県労働局 発行所 鹿児島 労基 労基
購読会員	お名前	〒	
申込書	住所	TEL	
	〒	FAX	
	TEL		